

## 「連携連絡票」で変化したこと

### ■ 8割が連携しやすくなったと回答

#### 築場

連携連絡票を作成して、変化したことについて伺います。

#### 小松

色々ありますが、まずは、おかげさまで実地指導の際に、医療との連携について色々と言われなくなりました（笑）。

法律上必要なことでも、できない事をするように言われるは、本当につらいものです。それを言われなくなったのもありがたいことです。

あとは、仕事が良い意味で楽になりました。以前は、利用者の外来受診に同行して半日かけて先生方に会って確認していたことを、FAXで行えるようになったので、業務も楽になりました。

そして、介護支援専門員との連携の必要性を理解して頂けたことで、先生方が優しくなりました（笑）。以前にあった「何しに来たんだ？」という感じは少なくともなくなりました。全ての先生がwelcomeなわけではありませんが、世の中そんなものでしょうからね。

実際の数字としても、連携連絡票の運用前と後に、現状を把握するため管内のケアマネジャーを対象にアンケート調査を行い比較検証したところ、「医療機関等と連携を取りやすくなった。」と約8割の方が回答していましたので、確実に医療機関とケアマネジャーの連携は前進しているのではないかと思います。

もう一つの変化としては、現実問題としては、連携が促進したことで、連携に関するトラブルがあるのも事実です。正直、今まで連携していなかったからトラブルがなかっただけで、それも「連携を取っている証拠」（笑）とポジティブに捉えています（笑）。その都度、森田先生や各団体・ケアマネジャー協会の皆さん等と話し合いを行い、ケアマネジャーに連絡を取りながら運用面の改善をしているところです。

#### 築場

連携に関するトラブルについて、話せる範囲でお願いできますか。



#### 小松

色々ありますが、特に多いのは、長々と文章を書いているのに結果的に“主治医に何を聞きたいのか全く分らない”とかはありますね。他には、“それは先生に聞く話じゃないんじゃない？”ということを知っているケースもあります。例えば、「利用者さんがサプリメントや健康食品を飲みたいと話しているのですが、飲んでもいいでしょうか？」とか（笑）。

運用開始当初から、用件を端的に記載するように話していますし、先生方からも同様の要望があると何度か伝えてはいるんですが、その壁を越えられずに、気を遣いすぎて回りくどい文章になって、結局何を聞きたいのかわからなくなっていたり、その逆で、垣根が低くなった分、何でも気軽に相談してしまうという感じですかね。まー「連携を取っているからこそその贅沢な悩み」ということでお許しください（笑）。

### ■ 現場の困りごとを拾い上げ、一つ一つ改善していける地域に

#### 高橋

指導する側としては、医療との連携がしやすくなったこととか、労力が少なくなりましたという声を実際に聞く機会がすごく増えたので、やってよかったなとすごく感じました。指摘事項として文書を出すことが少なくなりました。

ケアマネジャーさんの役割も地域に浸透してきたなと感じます。連携連絡票を行政主導でなく、皆さんがそれぞれ役割を持って作ったということで、自分事として大事にしてくれていると感じます。

連携連絡票だけではなく、「もっとこうしていきたい。」という意見がたくさん出て来るようになりました。「入院時の情報提供の手引き」は、入院の際に必要な情報をケアマネジャーが伝えますということ圏域でルール化したり、気仙沼市立病院さんと、